

悠久校友会会誌

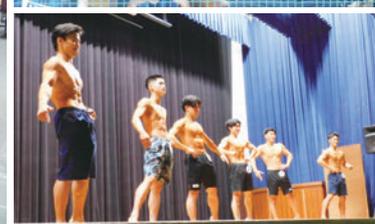
悠久

阿南高専悠久校友会



2026・春
第58号
2026年3月17日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久校友会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



目次

名誉会長ご挨拶
校友会会長ご挨拶
学校だより

デジタル×専門分野による高度専門人材の育成・学生の活躍 2025
学寮(明正寮)便り・一般教養便り・機械コース便り・電気コース便り
情報コース便り・建設コース便り・化学コース便り・専攻科便り

新任・退任教員よりご挨拶

現役クラブだより

〈体育部〉 硬式テニス部・ソフトテニス部・バスケットボール部
卓球部・水泳部
〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング研究部
AST倶楽部(LEDイルミネーション)

現役クラブだより
(2025年度表彰一覧)

事務局だより

支部だより

東京支部・徳島支部

会員だより

近況短信・勝手に書きます! 言いたい放題名作映画紹介(第10回)
赤い手帖(35)・たそがれびとの子守唄◎・EXPO2025の思い出
定年後の楽しみ・【自分史の記録 Part2】ある坊主親父のQC伝言板
フランス国土一周 回想録(5)

総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

大和田 恭子

悠久校友会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

このたび2025年4月1日付で阿南高専校長に着任いたしました。これまで群馬高専物質工学科において19年間、高専教育に携わってまいりました。その中で、学生が「地域をよりよくしたい」「地域が抱える課題を自ら解決し、社会の役に立ちたい」という強い思いを持っていることを実感してきました。地域に根差し、地域に活力をもたらす高専であり続けるため、地域企業や行政との協力関係に加え、卒業生の皆様とのつながりを大切にしながら、実践的かつ高度な技術者の育成に努め、社会へと送り出している所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

昨年、阿南高専悠久同窓会の団体名称が「悠久校友会」となり、2025年度入学生より阿南高専悠久校友会の会員資格を得られることとなりました。同窓会時代から数え2028年には創立60周年を迎える歴史ある悠久校友会が、新たに卒業生と在校生の強固なネットワークのもと、発展を遂げることを心から期待しております。

さて、世界的にAI分野の成長は目覚ましく、それらの技術を駆使できる人材の育成が極めて重要な時代となっています。実際、生成AIは様々な分野で革新的な変化をもたらしており、企業が将来にわたって競争力を維持し、新たな価値を創出するためには、生成AI技術を理解し、それを活用できる能力をもつ人材が求められています。AI・IoT・データ活用を製造現場に実装できる技術者の不足は深刻であるとの調査結果もあり、まさに阿南高専が目指す「ものづくり×AI情報技術」による高度情報専門技術者の育成が求められているといえます。本校では、文部科学省の大学・高専機能強化支援事業（高度情報人材の確保に向けた機能強化に係る支援）の中核である、各専門コースに特化した高度情報教育プログラムを設置しました。学内の情報教育を統括する組織として高度情報教育センターを置き、本年竣工を目指してセンター棟の建設が進められています。正門正面に位置する新築3階建ての高度情報教育センター棟は、本校の新たなシンボルとなるでしょう。

教育面ではまた、PBLを通じたコンピテンシーの育成にも力をいれており、培ったコンピテンシーを生かした地域課題解決への取組として、阿南高専科学技術振興会（AST）が支援するAST倶楽部の活動があります。昨年、阿南市牛岐城趾公園で開催された「あなんDE光の冬まつり」において、LEDイルミネーションの展示と工作WSを行い、学生のコンピテンシーやものづくり能力の育成につなげています。

また、高専の早期専門教育、実験・実習重視、現場志向・問題解決志向といった特徴から、高専生の「アントレプレナーシップ育成」は、文科省・経産省・産業界のいずれからも期待されています。本校も高専機構本部が推進するCOMPASS5.0の中で、事業者目線の経営知識・能力を育成する事業に継続的に参加しており、本校OB・OGの起業経験者による講演会「AST起業塾」を昨年も2回開催しました。ビジネスコンテスト「第13回高校生ビジネスプラン・グランプリ」では、阿南高専と東京高専の合同チー

ムが5,640件の応募プランの中からファイナリスト10組に選出され、今年1月の最終審査会で発表します。高専GCONでは、89チームのエントリーから12チームが本選出場枠に選出され、起業家サミット本選には2チームが出場を果たしました。AST起業塾においても本校卒業生にご支援をいただいているところですが、更なるアントレプレナーシップ教育の強化のためには、起業家マインドを醸成する環境整備が不可欠であり、校友会組織の皆様のご支援、ご協力が欠かせません。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年10月に、本校を会場に「全国高専ロボコン2025四国地区大会」が開催されました。教職員および学生が大会運営に携わり、成功裡に終えることができました。阿南高専から2チームが出場し、卒業生の皆様からの温かい声援を受けて健闘しました。全国大会出場は果たせませんでした。大会終了後、本校チームの学生らは、各高専に技術に関する質問を重ねるなど早くも次の大会に向けて意欲的に技術向上に取り組む姿勢を見せており、来年の活躍が期待されます。第36回全国高専ロボコン本選が昨年10月に松江で開催されました。本校の3チームすべてが特別賞を受賞し、そのうち課題部門の2チームは、今年3月にベトナムで開催されるNAPROCK国際プログラミングコンテストの出場権を獲得する活躍を見せました。第22回全国高専デザコンでは、プレデザコン部門（創造デザイン・フィールド）において最優秀賞受賞という大きな成果を挙げました。各種コンテストへの出場は、高専間で課題解決を競い合う中で実践力、創造力、協働力を育む極めて重要な教育の機会となっています。

昨年11月2日に開催された蒼阿祭において、図書館2階に開設された「悠久校友会ブース」に歴代アルバム展示やOBとの面談コーナーが設けられました。卒業生をはじめ在校生や保護者など多くの方が訪れ、有意義な情報交換が行われている様子から阿南高専の良き伝統を感じることができました。

日本の高専教育制度は海外でも非常に高い評価を得ています。モンゴル、タイ、ベトナムに加えて、昨年9月エジプトにKOSENが設立されました。昨年10月に本校においてタイ高専の教職員19名の2週間の研修を受入れ、専門研修としてOJT研修や事務研修を実施し、本校としても今後の国際化に向けた多くの示唆と着想を得ることができました。本校と海外の機関間交流も活発化し、昨年はシンガポールのリパブリック・ポリテクニクから39名、今年1月には台湾・国立新竹高級工業職業学校より40名、ベトナム商工短期大学およびカオタン工業短期大学より8名、さらに3月にはドイツ・オストフリア応用科学大学より教職員・学生による視察団の受入れおよび短期研修の実施が予定されています。協定校との連携も進展し、ダナン大学とのMOU更新の他、ベトナム商工短期大学と新たにMOUを締結しました。本校学生の海外短期留学・海外研修として、台湾、ベトナム、シンガポール、ドイツに計21名を派遣しました。留学生はタイ、ミャンマー、ウガンダ、ラオス、イランから計14名が在学中です。ドイツの協定校から2名の短期留学生も受け入れています。これらの国際交流は、学生の国際感覚の醸成に大きく寄与しています。

15歳人口の急速な減少という状況のもとにあっても、今後も優れた入学者を確保し発展していく阿南高専であるために、教育改革を継続するとともに、地域企業等との共同研究、リカレント教育、出前授業による地域貢献等に教職員一同引き続き全力で取り組んでまいります。悠久校友会の皆様におかれましては、阿南高専の学校運営ならびに学生達の活躍にご支援とご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



未来は明るい、 頑張れニッポン!

悠久校友会会長

横手 久典

令和六年度末でわが校の卒業生は8,159名を数え、従来の同窓会活動を見直す時期に差し掛かってきたようにも思えます。予測すると2036年には一万人の卒業生を輩出するわが母校。そこに向かって同窓会運営も変わって行かねばなりません。同窓会から校友会に移行させたのもその一環であることをどうかご理解ください。令和七年度の総会において、同窓会を校友会制度に移行した弊会名称を「悠久校友会」とする変更案が、満場一致でご承認されましたことをここに、ご報告申し上げます。令和七年度の新入学生には、入学式終了後の保護者会にて「校友会」のご説明、全員ご入会を許諾していただきました。卒業生の皆様には、これまで同様「悠久校友会」にご支援・ご協力のほど切にお願い申し上げます。

また、校友会の会則では第五条(1)正会員を「阿南工業高等専門学校に入学、在学した者」とし、校友会会則の「卒業した者」を変更いたしております。したがって、入学後何らかの理由で進路変更をされた方々にも門戸を広げ、入会金をお支払いいただければ、入会可能となっております。ご希望の方おられましたら悠久校友会事務局にご連絡ください。

昨年の活動についてご報告をさせていただきます。以前にもご紹介いたしましたが、月一度の「縁の下の会」(後援会、AST、悠久の阿南高専外部支援三団体の役員)の会合は継続されております。また、より会議の充実を図るため、本年より卒業生の高橋重之氏(1M)、大西賢治氏(6C)、内藤修身氏(7E)、本田泰弘氏(11E)、森山兼作氏(12M)の5人の諸先輩にアドバイザーとしてご参加いただいております。心強い先輩方の的確なご助言を今後の活動に活かして行けるものと確信しております。2月11日、「関西阿南ふるさと会」に参加、関西のOBの皆様や阿南市内高校同窓生とも交流を図ることができました。因みに「関西阿南ふるさと会」の会長は、宇野浩氏(1M)がされております。2月19日、阿南高専にて阿南高専参与会に参加。4月3日、前述した入学式、後援会総会の後、安田武司先生(37M)と共に、新入生保護者へ校友会のご説明をさせていただきました。4月19日、悠久校友会関東支部総会に出席、OBの方々と交流させていただきました。5月7日、校内美化活動、草刈に悠久からも多くのご参加いただきました。7月19日、悠久校友会理事会を開催、9名の理事役員にお集まりいただき、総会前の打ち合わせ及び意見交換も行われました。8月12日、悠久校友会の総会を開催、

総会前の講演会では清水技研(株)社長清水達生氏(38E)にご講演いただき、その後総会を開催し、令和6年度の収支決算報告、令和7年度収支予算、悠久同窓会から悠久校友会への名称変更の件、校友会誌の発行の件についての提起などが行われ無事ご承認をいただき閉会となりました。その後は恒例の「名誉教授会」の恩師らと昼食をともにし、学校側からも現状の報告もあり懐かしい時間を過ごすことができました。9月19日、全国高専同窓会連合会の事務局長永憲法氏(佐世保高専同窓会幹事)が、阿南高専に来校。今後の同窓会活動について意見交換をしました。10月19日、「高専ロボコン」四国予選が阿南高専にて開催。その際高知高専校友会と四国五高専の同窓会の意見交換会について一堂に会せる機会を設けるよう企画したところ、5高専の同窓会が阿南高専に集まり、意義ある意見交換が行われました。今後は、これを継続させ、互いの高専の同窓会、母校繁栄のために全国組織へ提言していくことで一致、来年の「高専ロボコン」四国予選の当番校、弓削商船高等専門学校での開催を決定し、閉会しました。10月26日、「東京徳島県人会」が東京ドームホテルで挙行政され、悠久関東支部のOBと共に出席させていただきました。目的は、悠久の60周年を数年後に控え、その足掛かりに参加いたしました。内容はまだ皆様には公表できる段階ではありませんので、差し控えます。決定してからご報告いたします。11月1日、「第3回悠久校友会支部連絡会議」を開催、関東支部長高橋保人氏(7M)、関西支部長久米啓右氏(7E)、徳島支部長(7M)にご参集いただき悠久本部からは、顧問である大和田恭子校長、担当の中村雄一先生(22E)、会長、副会長、事務局等で現状の報告や意見交換をさせていただきました。翌日の蒼阿祭では、支部長をはじめ「縁の下の会」アドバイザーの皆様も校友会ブースに入り、現役学生の相談コーナー、卒業アルバムや同窓会誌「悠久」の閲覧へのご協力、蒼阿祭執行部からの体育館でのイベントのお菓子投げの協力要請にも対応していただきました。11月15日、東京晴海で開催された全国高専同窓会連合会総会に参加、四国五高専の意見交換会の報告と提言を高知高専と共に発表いたしました。以上のように私にとりまして大変、忙しい一年でありました。これからは、皆様のご協力をいただきながら「悠久60周年式典」の節目にむかって頑張ってみようと考えております。

わが国では、初の女性首相が誕生し「責任ある積極財政」を唱える久々に前向きなリーダーを擁し、一気に明るさを取り戻し活気づいている様に思われます。前号のあいさつ文で森信三氏の予言めいた言葉を紹介いたしましたが、2025年終盤になって、真実性を帯びてきたのではないかとワクワクしております。常に希望と明るさを持ち続け、世界で注目される国となり、わが母校の卒業生が大いに活躍されることを期すると共に、会員諸氏のご健勝、ご繁栄、ご多幸を心から祈念しご挨拶とさせていただきます。

「悠久同窓会」は「悠久校友会」に団体名称が変わりました。

本会はこれまで、阿南高専の卒業生で構成された同窓会組織でした。これまでの活動に加え、在校生や母校への支援など、さらに幅広い活動を目指すため、在校生も会員となる「校友会」制への移行が数年前から提案されておりました。

このたび、令和6年度悠久同窓会総会にて承認され、令和7年度より校友会制への移行が実現することとなりました。そして、令和7年度悠久同窓会総会にて団体名称の変更についても承認され、「悠久校友会」となりました。

今後は、阿南高専の卒業生と在校生で構成されるネットワークを基盤とし、会員相互の交流・親睦を図りながら、阿南高専の教育・研究に協力、その発展に寄与するための校友会組織となります。

在学中も、卒業後も、様々な活動で交流し、阿南高専を盛り上げていきましょう！

皆さま、これからも悠久校友会への変わらぬご支援・ご協力を、どうぞお願いいたします。



重要なお知らせ

同窓会誌「悠久」の発行・配布について

悠久校友会の活動は、会員の皆様からの年会費と新規入会者からの入会金によって支えられています。昨今の印刷費や郵送費等の物価高騰、ならびに会員の皆様からの会費収入の減少により、会報発行・配布の継続が厳しくなっている状況にあります。つきましては、

令和7年度発行「悠久58号」より、年会費納入者に限定して配布することにいたしました。

今後も更なる経費節減に努める所存ですが、会員の皆様には、年会費の趣旨をご理解いただき、同封の払込取扱票にて年会費をお振込みいただけますと幸いです。

今後とも、悠久校友会の運営につきましてご理解、ご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

また、同窓会誌「悠久」（バックナンバー含む）はWEBでも閲覧可能です。こちらの悠久校友会ホームページをご覧ください。



悠久校友会 HP



悠久59号 原稿募集

「会員だより」の原稿を集めるのに苦労していた時期もありましたが、ここ何年かはたくさんの会員の方からご寄稿いただき、充実した内容となってまいりました。

今後は、卒業生のみならず、現役学生およびその保護者も含めた幅広い読者を対象に、様々な情報を掲載できるよう、検討しております。

つきましては、次号「悠久59号」より、会員だよりは**お1人様1ページ以内の内容にて作成**いただけますと幸いです。ご寄稿多数の場合は、先着10名様までとさせていただきます。なお、掲載・編集については編集委員会にご一任ください。

対象：卒業生・現役学生

原稿の内容：1人1ページ以内

近況報告など楽しいお便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など何でもOK！

現役学生の方からの寄稿も大歓迎！

《文字数のご参考》

A4 / 1ページ / 写真無し → 2000～2200文字程度

A4 / 1ページ / 写真2枚 → 1500～1600文字程度

こちらの都合で誠に申し訳ございませんが、ご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお便り申し上げます。

悠久校友会ホームページのお知らせ

各支部のご案内、刊行物（校友会誌）の閲覧、お知らせなどのコンテンツを用意しております。在学生・卒業生の皆様に情報発信しております。是非ご覧ください。

<https://yukyu-dosokai.com/>

【阿南高専 HP「悠久校友会」ページにもリンクを設定しています】

悠久校友会ホームページには、校友会誌「悠久」のPDFデータを掲載しています。バックナンバーも含め、WEB上でいつでも「悠久」をご覧いただくことができます。

悠久校友会お問い合わせ先

住所変更、その他お問い合わせなど、メールまたは右記フォームからご連絡可能です。

事務局メール

dosokai@anan-nct.ac.jp

連絡フォーム



学 校 だ よ り

デジタル×専門分野による 高度専門人材の育成

教務主事

福見 淳二

悠久校友会会員の皆様、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。今年度より教務主事を務めております情報コースの福見淳二です。

令和7年度入学生より既存の情報コースに加え、機械・電気・建設・化学の全コースに新たな情報系プログラムを設置し、高度情報専門人材の育成に取り組んでいます。現在、高度情報教育センター棟を図書館前に建設中で、2025年度内の竣工を目指しています。

また、現在本校は数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の認定を受けています。この認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力（リテラシーレベル）や、課題を解決するための実践的な能力（応用基礎レベル）を育成するための体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定するものです。平成29年度にリテラシーレベル、令和7年度に応用基礎レベルの認定を受けており、各コースに設置した情報系プログラムと組み合わせることで、低学年からの高度情報教育カリキュラムを構築しています。これにより、各学生の専門知識とデジタル系技術を融合した開発スキルを身に付けた高度専門人材を育成します。

令和7年度留学生は、タイ（8名）、ミャンマー（1名）、ウガンダ（1名）、イラン（1名）、ラオス（3名）の合計14名です。また、短期留学生としてドイツの協定校であるオストフアリア応用科学大学より2名を受け入れました。夏季休業期間中には、台湾の国立聯合大学に1名、ベトナムのカオタン工業短期大学に4名、シンガポールのリ

パブリック・ポリテクニクに2名、ドイツのオストフアリア応用科学大学に14名の学生を海外短期留学生として約1ヶ月間派遣しました。

また、令和7年10月15日（水）～10月29日（水）の約2週間、タイ高専（KOSEN-KMITL, KOSEN KMUTT）の教職員19名に対するタイ高専教職員研修を本校にて実施し、本校の教育システムやカリキュラム編成、成績評価手法、学生指導や寮指導等様々な面での情報交換を行いました。その他にも、令和7年10月にはシンガポールのリパブリック・ポリテクニクより教員・学生計39名の短期訪問があり、令和8年1月には、台湾・国立新竹高級工業職業学校より教員4名、生徒36名が研修旅行の一環として本校を訪問しました。海外教育機関との協定締結に関しては、令和7年8月にはダナン大学とのMOUを更新し、令和7年12月には商工短期大学（ハノイ）と新たにMOUを締結しました。このように、学生を巻き込んだ各協定校との交流が今まで以上に活発化しています。

本校が主催する今年度の企業研究セミナーは、12月に2日間開催し過去最高の401社が県内外から参加しました。本科2年生の希望者を含め本科3、4年生、専攻科1年生が参加し、積極的に質問を行うなどキャリア教育の一環として有意義なセミナーとなりました。

また、本校ではイノベーション人材の育成を目指し、アントレプレナーシップ教育の強化に取り組んでいます。本校における活動としては、高専機構が推進するKIC（高専インキュベーター委員会）事業に本年度は2年生6名が参加しました。さらに、本校OB・OGによる学生向けの講演会「AST起業塾」を今年度も2回開催しました。今後は、AST等の外部企業・機関と協同しながら、より高度な人材を育成していく必要があると考えています。学生の活動としては、高校生ビジネスプラン・グランプリでは、本校と東京高専の合同チームが応募総数5,640件の中からファイナリスト10組に選出されました。高専GCONでも、89チームのエントリーの中から書類・面接審査を通過し、本選出場枠12チームに選出されました。さらに、起業家サミット本選出場を果たしたチームも2チームあり、学生の活動も非常に活性化しています。

アントレプレナーシップ教育以外にもSTEAM教育に



高度情報教育センター棟（イメージ）



タイ高専教職員研修修了式

も本校は積極的に取り組んでいます。令和7年度にはSTEAMに関する小中学生対象の公開講座を6講座開催し、本校学生が主体となって講座を運営しました。この体験を通して、学生はコミュニケーション力等のコンピテンシーを磨いています。

また、STEAM教育を発展させるため、令和6年度に高専機構本部の「小中高専連携による個別最適なダイバーシティ型STEAM教育」に申請し、高専生向けの高専STEAM教育拠点校に選定され「高専STEAM教育におけるアントレプレナーシップ育成とイノベーション創発～地域連携と技術イノベーション実習を活用した課題解決型PBLの実践～」に取り組んでいます。令和7年度は、これらの取り組みを中四国の高専に展開するべく活動を継続しています。

高度情報技術やアントレプレナーシップ等のより高度な知識・技術を身に付けた高度専門人材の育成に向けて、今後とも務めて参ります。

学生の活躍 2025

学生主事
新井 修

○コンテスト関係

2025年10月19日、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025 四国地区大会」が阿南高専を主管として本校キャンパスにて開催されました。競技課題は、「Great High Gate」でロボットがボックスを積み上げてゲートを作り、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過するというものです。本校からは2チームが出場し、Aチーム（プロジェクト名「Victor」）が特別賞（ローム）、Bチーム（プロジェクト名「韋駄天」）が特別賞（デンソー）を受賞しました。大会も小雨のなか始まったものの天候も回復し、無事予定通りに行われ、成功裡に終了しました。終了後、NHK、悠久校友会の皆様、協賛企業各社から大会運営について高い評価をいただきました。今回の開催にあたりご協力くださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。

2025年10月12日に第36回全国高等専門学校プログラミングコンテストが開催され、課題部門、自由部門で特別賞（3位相当）を受賞しました。

2025年11月9日に第22回全国高等専門学校デザインコンペティションが開催され、プレデザコン部門創造デザインフィールドにおいて、最優秀賞を受賞しました。次回大会で配布されるトートバックのデザインとして使用されます。



ロボコン

○高専体育大会

2025年7月に開催された第62回四国地区高等専門学校体育大会において、本校が総合優勝という結果を残しました。また、柔道・水泳・テニス・陸上・バドミントン・バスケットボール・サッカー競技が全国大会出場を果たしました。

9月、九州地区で開催された第60回全国高等専門学校体育大会では、水泳競技女子100mバタフライ第1位、女子100m自由形第2位、陸上競技男子やり投げ第3位、柔道競技男子66kg級第3位、バスケットボール競技男子団体第3位、バドミントン競技男子団体第3位、テニス競技男子団体第3位、テニス女子シングルス優勝、テニス女子ダブルス第3位と優秀な成績を収めました。



バスケットボール



バレーボール

○国民スポーツ大会（わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025）

2025年9月28日～10月8日、滋賀県で開催された国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」のスポーツクライミング競技、ボウリング競技、水泳競技に本校学生が出場しました。スポーツクライミング競技では、少年男子リードで第5位と健闘しました。



スポーツクライミング

○全国高等学校総合体育大会

（中国インターハイ2025）

2025年7月23日～8月20日、中国地区で開催された令和7年度全国高等学校総合体育大会の水泳競技、テニス競技、空手道、陸上競技に本校学生が出場しました。



空手

○県内大会・全国大会など

その他の大会における学生の活躍のうち主なものを挙げます（ここでは原稿締切の関係で12月までの成績）。

- ・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会県予選
 - 男子60kg級 第3位
 - 男子90kg級 第3位
- ・第47回徳島陸上競技カーニバル
 - 男子走高跳 第2位
 - 男子円盤投 第3位
 - 男子やり投 第1位
 - 男子走幅跳 第3位
- ・徳島県高等学校選手権大会水泳競技
 - 女子団体総合 優勝
 - 女子100mバタフライ 優勝

- 女子 200m バタフライ 優勝
- 女子 200m 個人メドレー 優勝
- ・第 55 回四国高等学校選手権大会テニス競技
女子シングル 第3位
- ・第 78 回四国高等学校選手権大会陸上競技
男子やり投 第2位
- ・第 12 回全国高等専門学校弓道大会中四国予選
男子団体 準優勝
男子個人 第4位
- ・第 76 回四国高等学校選手権大会水泳競技
女子 100m バタフライ 第2位
女子 200m バタフライ 第3位
- ・第 55 回徳島県高等学校新人陸上競技大会
男子走高跳 第1位
男子やり投 第3位
男子砲丸投 第3位
- ・徳島県高等学校新人柔道選手権大会
男子 60kg 級 準優勝
男子 100kg 級 準優勝
- ・徳島県高等学校空手道新人大会
男子個人形 第2位
- ・第 78 回全日本バレーボール高等学校選手権大会徳島県予選会 第3位

○四国地区高専総合文化祭

2025年12月19日、ハイスタッフホールで開催された四国地区高等専門学校総合文化祭では、吹奏楽・軽音楽・落語・絵画・写真・書道・将棋・茶道・英語スピーチコンテスト・留学生・ストリートダンスが各部門に参加し、美術部優秀賞2名、吹奏楽部優秀賞(1位)、英語スピーチコンテスト第2位、書道部佳作3名と優秀な成績を収めました。



総合文化祭

○蒼阿祭

2025年11月2日、第17回蒼阿祭を開催しました。今年度は、第一体育館で各種イベント、第二体育館で模擬店を設置しました。悠久校友会後援のお菓子投げやフィジークイベントなど、会場は大盛況でした。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、昨年度に引き続きお笑い芸人を招いてお笑いライブを開催しました。今回のゲストは、しずる、ザ・パンチ、こがけん、みつとーでした。室内では専門展示のほか、軽音LIVE、ロボコン、写真、書道、写真、TRPGサークル、演劇、落語公演、茶道部お茶会、工作・オーディオ、ビブリオバトル、カラオケ大会、コスプレイベントなど会場は盛り上がりました。悠久校友会もブースを構え、学生・保護者からの各種相談に応じさせていただきました。

○おわりに

これからもいろいろな場面で学生が活躍できるよう支援していきます。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

学寮（明正寮）便り

寮務主事

西本浩司

悠久校友会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度より寮務主事を務めます機械コースの西本浩司です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の明正寮は、109名の新生を迎え、総勢424名（うち留学生13名）という活気ある体制でスタートいたしました。後期からは旧3号館の解体工事に伴い、一部の学生に通学のご協力をいただいた結果、現在は332名（男子264名、女子68名）で運営しております。急な環境の変化に対し、多大なるご理解とご協力を賜りました学生ならびにご家族の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

寮生活においては、限られた居住スペースの中でも学生同士がルールを遵守し、互いに切磋琢磨しながら充実した日々を過ごしております。以下に、令和7年度の主な活動についてご報告いたします。

■ 寄宿舍3号館（混住型学生寮B棟）の新営

本施設は、日本人学生と留学生が日常を共にする「混住型寄宿舍」として計画された、鉄筋コンクリート造3階建ての新営寮です（延床面積 約1,700㎡）。既に整備済みのA棟に続くこの新棟により、互いの文化や価値観を尊重し、多様性を自然に受け入れられる国際的な教育環境のさらなる充実を目指しています。



寄宿舍3号館（混住型学生寮B棟）の新営完成イメージ図

■ 教養講座（茶道・華道・英会話）

伝統文化や語学に触れる機会として継続して実施しています。茶道では作法や立ち振る舞いを学び、華道では個性を生かした作品づくりに励んでいます。専門の講師によるご指導のもと、技術のみならず豊かな感性を養う場となっています。また、英会話においてはクリストファー・ブライアン・プロワント先生を講師にお迎えし、特別講演を実施しました。生きた英語に触れる貴重な機会となり、学生たちは積極的にコミュニケーションを図りながら、語学への関心と国際的な視野を広げることができました。



茶道



華道

■ 学寮防災訓練

春季（5月14日）には津波避難訓練を実施し、約10分で屋上への避難を完了しました。また秋季（10月21日）には火災避難訓練を行い、グラウンドへの迅速な移動と消火器を用いた消火体験を実施しました。常に防災意識を高く持つよう指導を徹底しております。



春季防災訓練



秋季防災訓練

■ 特別講演会とマナー講座

学年に応じた有益な知見を得る場として、外部講師を招いた講演会を開催しています。

防災講座（1年生）：

徳島大学環境防災研究センターの上野教授より、専門的な知見を学びました。

金融講演会（4年生）：

トモニホールディングス株式会社の中村武代表取締役社長より、社会人に不可欠な資産運用や銀行の地域貢献についてご講話をいただきました。

テーブルマナー講座（5年生）：

卒業を控えた学生が、本格的なコース料理を通じて実践的なマナーを学習しました。



防災講座



金融講演会



テーブルマナー講座

■ 地域貢献活動

地域社会の一員として、環境美化活動にも積極的に取り組んでいます。

北の脇海岸「リフレッシュ瀬戸内」清掃活動：

6月21日（土）、「受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海」をキャッチフレーズに、阿南市が主体となつ

て実施している北の脇海岸の清掃活動に参加しました。美しい海を守るという目的のもと、学生たちは懸命にゴミ拾いに励み、環境保護の大切さを再認識する機会となりました。



北の脇清掃活動

校舎外周の用水路清掃：

阿南市役所との連携の一環として実施しました。学生たちは胴付水中長靴を着用して水路内に入るなど、本格的な清掃作業にあたりました。作業後は水流もスムーズになり、地域の住環境改善に大きく貢献することができました。



校舎外周の用水路清掃

■ 学寮組織の運営

明正寮の運営は、役員寮生および7つの委員会（環境、設備、防災、イベント、IT管理、国際交流、広報）の学生組織によって支えられています。学生たちはトラブル対応から日常の改善活動まで、一人一人が責任感を持って取り組んでおり、自主自律の精神が育まれています。

明正寮の最新情報は、広報委員を通じて本校ホームページにて随時発信しております。ぜひご覧ください。今後も寮生が安全で満足度の高い寮生活を送れるよう、寮務主事として誠心誠意職務にあたってまいります。

一般教養便り

一般教養主任
田上隆徳

悠久校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度より一般教養主任を拝命致しました田上隆徳と申します。平素より本校の教育活動に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず一般教養の人事についてご報告致します。去る令和7年の春をもって、西森康人先生が山梨大学に、園田昭彦先生が鈴鹿高専にそれぞれ転出されました。西森先生は平成25年の赴任以来、数学教員として学生の数学力向上に大いに貢献をされる傍ら、ソフトボール部顧問として四国選手権大会へ3度導くなど、課外活動の指導にも熱心に取り組まれました。園田先生は平成28年に赴任され、物理教員として実験等を通じて学生の知的好奇心を刺激する授業を展開されました。またキャリア支援室の副室長（進学

支援担当)として学生の編入学対応の要となり重責を担われました。お二人の新天地における更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

続きまして一般教養に新たにお迎えした4名の先生方をご紹介します。藤原みずき先生、川畑弥生先生、後藤祐美先生、原誠弥先生です。藤原みずき先生は、令和6年8月に国語教員として着任されました。ご専門は日本文学・日本文化です。2・3年生の「日本語総合」や、5年生の「日本語コミュニケーション」、「日本語日本文化1」を担当されています。川畑弥生先生は、国立高専機構の同居支援プログラムを活用され、令和7年4月に福井高専より着任されました。ご専門は刑法です。4年生の「法学」、専攻科の「環境政策論」を担当されています。後藤祐美先生は令和7年4月に本校電気コースより一般教養へ配置換となりました。ご専門は蛍光発光材料です。数学教員として1年生の「基礎数学1」、2年生の「数学B」を担当されています。原誠弥先生は令和7年9月に数学教員として着任されました。ご専門は離散微分幾何学です。2年生の「基礎数学2」、3年生の「線形代数」を担当されています。多彩な専門性を持つ4名の先生方が、一般教養の教育研究に新風を吹き込み、学生たちの学習意欲を大いに刺激してくださることを期待しております。

次に一般教養教員の主な校務についてご報告致します。

【国語】

錦織浩文先生 1年1組担任、広報情報室委員
藤原みずき先生 2Z担任、図書委員

【社会】

藤居岳人先生 1年4組担任、図書館長
今田浩之先生 2I担任
川畑弥生先生 学生主事補、1年4組副担任

【英語】

藤井浩美先生 1年2組担任、1年学年主任
谷中俊裕先生 1年3組担任
プロワント先生 寮務主事補、2E・2C副担任
福井龍太先生 教務主事補、グローバル推進室副室長

【体育】

新井 修先生 学生主事
中島 一先生 副学生主事、1年2組副担任

【理科】

松尾俊寛先生 2M担任、2年学年主任
山田洋平先生 学生相談室長、2Z副担任

【数学】

山田耕太郎先生 副教務主事、1年3組副担任
浮田卓也先生 2E担任、創造教育推進チーム
後藤祐美先生 寮監、1年1組副担任
原 誠弥先生 教務主事補、2M副担任
田上隆徳 一般教養主任、2C担任

新たな先生方を迎え、新体制のもと教育研究活動により一層邁進してまいる所存です。悠久校友会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお祈り申し上げます。



機械コース便り

機械コース主任

大北 裕 司

悠久校友会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度の機械コース主任および3年生担任を務めさせていただいています大北です。どうぞよろしくお祈りいたします。

機械コースの近況についてご報告させていただきます。まず、人事ですが、川畑成之先生が令和7年4月1日付で教授に昇任されました。次に、今年度の各先生の主な担当ですが、西本浩司先生は寮務主事、奥本良博先生は専攻科長と就職担当、川畑成之先生は広報情報室長と5年生の担任、松浦史法先生は総合情報処理室長と教務主事補、安田武司先生は4年生担任と進学担当、伊丹伸先生は寮務主事補、中岡信司先生(11回機械)は学生主事補をしております。中岡先生は、今年が最後となり、2Dおよび3DCADの指導や学生主事補の仕事丁寧に進めて頂きました。2年間ありがとうございました。タイ高専へ出向されている原野智哉先生は、タイでの生活が今年で2年目となり、来年度は阿南高専へ復帰される予定です。

教職員の活動状況として、佐々木翼技術専門職員が、溶接ヒューム啓発教材の開発と提案に関して令和7年度高志賞を受賞されました。学生の活動状況としては、機械コースを昨年度に卒業した乗原俊光さんが、令和6年度パテントコンテストにて特許庁長官賞を受賞し、その授賞式が令和7年3月に東京ミッドタウン八重洲カンファレンスにて開催されました。また、機械コース2年生の二宮石太郎さんが、第13回「高校生ビジネスプラン・グランプリ」ファイナリストに、東京高専との合同チームの一員として選出されました。ファイナリストに選ばれた10組は、令和8年1月に開催される最終審査会でプレゼンテーションを行い、グランプリの頂点を目指します。また、技能検定・機械検査の実技試験において優秀な成績を収めたことから、第50回徳島県職業能力開発促進大会にて、機械コース3年生の鎌田彦太さんが優秀技能士知事表彰を、炭谷柊史さんが優良技能士表彰を受賞しました。本資格取得に当たつ



パテントコンテストにて特許庁長官賞を受賞



第13回高校生ビジネスプランコンテストにおいてファイナリストメダルを受賞



令和7年度優秀・優良技能士知事表彰の受賞
(左:鎌田さん、右:炭谷さん)

ては、立石学技術専門職員の熱心なご指導によるものであり、これまでに機械検査3級では多くの機械コース学生を合格に導き、成果を上げています。

今年3月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。まず、就職先企業として、大塚製薬(株)、日亜化学工業(株)、四国電力(株)、メタウォーター(株)、江崎グリコ(株)、極東開発工業(株)、SUBARU テクノ(株)、(株)カネカ、西日本旅客鉄道(株)、(株)岡山村田製作所、大阪ガスネットワーク(株)、島津プレジジョンテクノロジー(株)、(株)イシダ、ダイキン工業(株) (2)、東京ガスネットワーク(株)、(株)デンソー、JNC エンジニアリング(株)、東京都下水道サービス(株)、第一工業製薬(株)、ムラテック CCS (株)、(株)西島製作所、ニプロ(株)となっています。進学先は、本校専攻科 (2)、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学 (2)、千葉大学、岡山大学となっています。

例年、機械コースでは2年から4年の各学年で研修旅行を実施しています。4年生は、12月に長安口ダムにおいて機械設備の見学と学外授業を実施しましたが、2年生および3年生については3月上旬に実施予定となっています。2年生は3月11日～13日に関西方面への研修旅行(三菱重工神戸造船所、パナソニックエナジー、西島製作所の見学)を、3年生は3月9日～11日に関東方面への研修旅行(JAXA筑波宇宙センター、荏原製作所、JAL エンジニアリングの見学)を予定しています。

機械コースは、よりよい教育を目指して教職員一同力を尽くしていますので、今後ともご支援ご協力をお願い致しますとともに、悠久校友会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



令和7年度4年生学外授業研修旅行

林美緒先生が令和7年4月1日付で信州大学に異動されました。その代替教員として、藤井大智先生が任期付助教として本校に着任されています。藤井先生は岡山理科大学大学院博士後期課程1年にも在籍しており、二足の草鞋を履く活動をされています。今年度の教員の校内役職としては、松本高志先生は副校長(総務)、中村雄一先生は自己点検・評価委員長と専攻科長補佐、小松実先生は高度情報教育センター長と教務主事補、釜野勝先生は地域連携・テクノセンター長と3E担任、藤原健志先生は5E担任(就職担当)、香西貴典先生は副寮務主事、朴英樹先生は4E担任(インターンシップ担当)、長谷川が主任と学生主事補となっています。

教職員の活動状況についてですが、香西貴典先生が「企業・自治体や実務家教員との連携による高度な技術者の育成と地域貢献」により令和6年度国立高等専門学校教員顕彰(若手部門)優秀賞を受賞されました。AST倶楽部の「プログラミング教育強化」をテーマとした取組として、阿南市教育委員会および教育教材の開発を行う企業と連携し、プログラミング教育に関する小中学校への出前講座や小中学校教員向けの研修会実施により地域に大きく貢献されています。また、地元企業の技術者を講師として迎え、受講を希望する学生を対象に、レーザーをはじめとする光技術に関する講義を実施している点も高く評価されました。

今年度は、日本では愛・地球博以来20年ぶり、大阪では55年ぶりとなる大阪・関西万博が開催される記念すべき年となりました。このような大きな国際イベントにおいて、電気コースの学生も発表やワークショップを通して活躍しました。読売新聞社企画による高専の社会課題解決への取組を紹介するEXPO 共鳴フェス「高専未来チャレンジ」が、6月に大阪・関西万博会場内のEXPO メッセ「WASSE」にて開催され、25高専が参加しました。本校からは、「独自開発レーザー微細加工機の紹介」と「オリジナルメダルキーホルダー作り体験」をテーマに、長谷川と尾崎技術専門職員および開発に参加している卒研生が参加しました。オリジナルメダルキーホルダー作り体験は大変好評で、二重三重の長い待ち列ができるほど多くの来場者に体験していただきました。また、電気コースおよびAST倶楽部(LED)所属の学生が、7月に大阪・関西万博関西パビリオンで開催されたイベント「徳島のなつやすみ自由研究ゾーン」において、「阿波おどり人形LEDボトルづくり」のワークショップを実施しました。このほか、7月に徳島県で国際学術会議「宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)」が開催されることに関連し、県主催による宇宙に関するさまざまなイベントが企画されました。その一つとして、徳島県内の高校生・高専生のアイデアをスペースバルーンに搭載し、成層圏まで打ち上げるスペースバルーントライアル「そら Lab@Tokushima」が実施され、3月に徳島大学において公開審査会が開催されました。本校からは、電気コース3年生から5年生で構成されたチームが、成層圏における空気の膨張により折鶴が開くアイデアを発表し、審査を通過しました。フライトオペレーションは6月に室戸市で実施され、その成果について

電気コース便り

電気コース主任

長谷川 竜 生

悠久校友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度より電気コース主任を務めています長谷川です。よろしくお願いたします。

電気コースの近況についてご報告させていただきます。まず人事ですが、藤原健志先生が令和7年4月1日付で准教授に昇任されました。また、高専機構本部事務局国際企画課准教授国際参事補としてタイ高専に赴任中であつた小



そら Lab@Tokushima での
スペースパルーン成層圏フライト

て、7月にアステイ
とくしまで開催され
た第35回ISTS徳
島大会において発表
を行いました。さら
に最終成果発表とし
て、10月に大阪・
関西万博会場関西パ

ピリオン多目的エリアにおいて成果発表会に参加しました。万博という大きな舞台での発表や、国内外を問わず子どもから大人まで多くの方々に体験していただく機会を通じて、これらのイベントに参加した学生にとって非常に貴重な経験となりました。

独自開発レーザー微細加工機紹介については、半導体分野における国内最大級の展示会であるセミコンジャパン2025（東京ビッグサイト）にも12月に出品を行い、電気コース学生が5名説明補助者として参加しました。本開発は内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業展開枠」として取り組んでおり、本事業予算によりアカデミア展示エリアではなく一般展示エリアにデザイン性のあるブースを設営しました。来場者からは「企業のブースだと思った」、「阿南高専だけ、なぜこのようなブースを出展できるのか」、「高専がこのような装置を開発したのか」といった驚きの声を多数いただき、高専における研究・技術開発力や人材育成の取組を広く発信する貴重な機会となりました。



セミコンジャパン2025
阿南高専ブース

アントレプレナーシップ・スタートアップ教育の実施は、高専機構の方針として高専に求められている重要な取組です。電気コースでは、本教育に以前より力を入れており、「電気技術イノベーション実習」を実施しています。本実習の成果として、4年生チームのアイデアが「第3回高専起業家サミット」の書類審査を通過し、アイデア部門1チーム、プロトタイプ部門1チームの計2チームが2月に実施される本選（一橋講堂）に出場することとなりました。このうち1チームは女子学生3名で構成され、「阿波乙女：共創する物語～あなたとAIの人形浄瑠璃」のテ

マで、徳島県の文化である藍染めをテーマとした提案を行っています。本チームは、12月に開催された「第4回高専GCON2025」の本選（東京大学伊藤謝恩ホール）出場も果たしました。本校からの高専GCON本選出場は初めてであり、89チームのエントリーの中から、書類審査と面談審査を経て12チームのみが本戦に出場となる非常に狭き門を突破しました。さらに、同テーマは「AKATSUKIプロジェクト:re-KOSEN」にも採択されており、プロジェクト支援金（最大100万円）を受けて、1月の最終報告会に向けて活動を進めています。

研修旅行は、昨年度と同様に、3年生が2泊3日の日程で東京方面に行きました。1日目は、東京ビッグサイトで行われた「セミコンジャパン2025」に参加し、半導体分野に関連する最新の技術や材料、製造装置などを見学しました。会場には数多くの展示が並び、学生は熱心に説明を聞きながら見学していました。2日目にABB、3日目にJALエンジニアリングを訪問し、実際の企業現場における技術や業務内容について理解を深めました。また、今年度は大阪・関西万博が開催されたことから、2年生および3年生がそれぞれ日帰りで見学に行きました。学生は最新技術、世界各国の文化や未来社会への関心を深め、自身の将来を考える機会の一端となりました。

今年3月卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。今年度は進学者が多く卒業予定者のうち、約6割が就職、4割が進学となりました。就職先企業として、大鵬薬品工業（2名）、メタウォーター、神鋼テクノ（2名）、四国電力（2名）、花王、大塚製薬、村田製作所八日市事業所（2名）、大塚化学、日亜化学工業、東京都下水道サービス、三菱電機エンジニアリング、三菱地所コミュニティ、港産業、新日本電工、レーザーシステム、牧野技術サービス、丸井産業、王子エンジニアリング、山菱電機（2名）となっています。進学先として、阿南高専専攻科（3名）、豊橋技術科学大学（8名）、徳島大学、岡山大学、早稲田大学、東京大学となっています。特筆すべき点として、本校として40年ぶり2人目となる東京大学への編入学者を輩出することができました。

電気コースでは、学生の専門技術の修得とともに社会人基礎力の育成にも努めています。今後ともご支援ご協力をお願いいたしますとともに、悠久校友会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。



高専GCON2025本選での発表



3年生大阪・関西万博見学

情報コース便り

情報コース主任
岡本 浩行

悠久校友会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度より情報コース主任を拝命いたしました岡本と申します。よろしくお願い申し上げます。

まず、情報コースの各先生方の近況についてご報告させていただきます。杉野隆三郎先生は地域連携・テクノセンター副センター長とリサーチユニット長、福田耕治先生は学科長、学生主事補、進学担当、吉田晋先生はキャリア支援室長と5年生の担任、就職担当、福見淳二先生は教務主事、安野恵実子先生は3年生の担任、広報情報室副室長、学生相談室副室長、ワークライフバランス・ダイバーシティ推進委員会副委員長、平山基先生は副教務主事、総合情報処理室副室長、キャリア支援室副室長、太田健吾先生は4年生の担任、リサーチユニット長補を担当しております。また、高度情報教育センターのナハル エスエムラウフン先生と片山充二先生に4年生の創造工学ゼミナールを担当いただいています。

次に情報コースの学生の活動についてご報告いたします。令和7年10月11～12日に松江高専を主管として開催された第36回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて情報コースの学生を主としたチーム構成で、競技部門に1チーム、自由部門に1チーム、課題部門に2チームが本選に参加しました。結果として自由部門と課題部門に参加した3チームが特別賞を受賞しました。また、令和7年11月29日に香川大学林町キャンパスで開催された令和7年度計測自動制御学会四国支部学術講演会において、天羽優太さんの「VR用無移動歩行システムの開発」と美濃ちひろさんの「感性工学アプローチによるト

マトの保存期間・方法の違いが食味に及ぼす影響の検討」が優秀講演賞を受賞しました。これら学生の活躍は情報コース学生の主体的な探究心と日々の努力、その可能性を最大限に引き出した情報コース教職員のきめ細やかなバックアップを融合した結果です。これを一過性のものに終わらせることなく、今後もさらなる高みを目指して学生とともに活動を継続していきたいと考えています。

情報コースの行事についてですが、令和7年9月2～3日に3年生が関西への研修旅行を実施しました。初日には、理化学研究所計算科学研究センターと人と防災未来センターを訪問しました。2日目には川崎重工業株式会社西神戸工場の見学を行い、38期・制御情報工学科卒業生の近藤千恵さんにロボットDivの概要などを説明していただきました。また、クラスの親睦をさらに深めるため、淡路島にある「アニメパークニンゲンノモリ」でチームビルディング活動を行いました。4年生は令和8年2月に関東へ2泊3日の研修旅行を企画しており、チームラボのオフィス見学や東証Arrowsの見学を予定しています。

令和7年度卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。令和7年度の卒業予定者は29名です。就職先は、日亜化学工業(株)、大鵬薬品工業(株)、徳島トヨタ自動車(株)、(株)メンバーズ、(株)NSD、(株)STNet、(株)Asian Bridge、(株)メイテックフィルダーズ、大阪シーリング印刷(株)、ダイキン工業(株)、(株)ソフトサービス、(株)キャストム、(株)テクノプロ、(株)サイバーリンクス、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)Hakuhodo DY ONE、(株)ジャパンコミュニケーションとなっています。進学先は、豊橋技術科学大学、電気通信大学、京都工芸繊維大学、高知大学、徳島大学、阿南高専専攻科となっています。

これからも、学生たちが探究心を深め、研究や学習に打ち込める最良の教育環境を築き上げ、次代を担うエンジニアや研究者の輩出に、情報コース教職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。引き続き温かいご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、悠久校友会の皆様のご健勝と、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 松江大会



令和7年度計測自動制御学会四国支部学術講演会
(香川大学林町キャンパス)



令和7年度情報コース3年生研修旅行

建設コース便り

建設コース主任
森山 卓 郎

悠久校友会の皆様、今年度、建設コース主任を仰せつかっています森山です。よろしくお願いいたします。

建設コースのご報告として、まず教員の近況についてご報告いたします。この3月に、建築系分野を担当していた多田豊教員が愛媛大学に転出されました。今年度は建築系科目の授業を担当する教員は不在のため、非常勤講師として建築士の3名の方に建築計画や建築製図などの授業を担当していただいています。来年度に、建築系の新任教員が着任予定です。

今年度の教員の校内役職としては、5Cの担任と学生管轄を角野拓真先生、4C担任とインターンシップ担当を井上貴文先生、3C担任を吉村洋先生、専攻科1年担任を姜睿先生、教務主事補と3C副担任を長田健吾先生、寮務主事補を景政柁蘭先生が担当されています。加藤研二先生は、今年度も高専機構本部に出向されています。

今年度の5年生の進路状況としては、就職が12名、進学が9名です。就職先は、JFEエンジニアリング、東京都下水道サービス、フジタ建設コンサルタント(2名)、四国クリエイティブ協会、徳島県、原田建設、あおみ建設、東京水道、佐々木建設、西日本高速道路ファシリティーズ、徳島県警です。進学先は、阿南高専専攻科(3名)、愛媛大学(2名)、豊橋技術科学大学(2名)、関西外国語大学です。

コース内の行事や学外のイベント参加なども積極的に行っています。4月に、2C学生の建設コース配属の歓迎会を行いました。教室でドリンクやお菓子を用意し、建設コースの教職員の見学やピンゴ大会などを行いました。出席した建設コースの先輩の学生から、今後の建設コースでの学習などに向けての激励のメッセージもありました。6月には、毎年恒例となっている徳島県技術士会出前講座を4C学生と3C学生に対し、それぞれ別日に実施しました。各回とも、本校の土木工学科や建設システム工学科の卒業生を含めた約20名の技術士の方々から進路決定に向けて、学生1人1人に有益なアドバイスなどをいただきました。

8月にイオンモール徳島で開催された本校のものづくり体験イベントでは建設コースも参加し、「ブリッジコンテスト」や「ペーパーブリッジをつくろう」などのテーマを1日ずつ実施しました。当日はスタッフとして参加した建設コースの学生らが来場した小中学生らのサポートなどを行いました。9月には、2C学生が日帰りで瀬戸大橋見学に行きました。本州四国連絡高速道路および四国旅客鉄道のご協力が高架に上がらせていただき、普段なかなか見ることができない鉄道の線路近くの設備なども見学させていただきました。

10月に四国大学交流プラザで開催された2025年度第16回建築甲子園徳島大会では、建設コースの3C学生6名



徳島県技術士会出前講座

と2C学生1名が2チームに分かれて出場しました。建築甲子園は、日本建築士会連合会主催の建築を学ぶ高校生・高専生(3年生まで)が参加できる最も栄誉ある大会です。今年の課題は、「地域のくらし-地域に根ざした新しい和室を持つ戸建の住まい」でした。審査員の建築士の先生方の前でプレゼンや質疑応答を行った結果、3C学生4名からなるチームの「繋がる広がる和空間」の作品が優秀賞を受賞しました。最優秀賞は逃しましたが、本校に建築系の常勤教員がいない中、学生は非常勤講師の建築士の先生方に指導を受けるなど、主体的に課題制作に取り組みました。当初は建築に興味のある1年生も出場を考えて課題制作に挑戦していましたが、まだ専門的な勉強を十分していないこともあり、途中で出場を見送りました。今年、先輩から学んだことや経験したことなどを活かして、来年度以降の活躍が期待されます。



建築甲子園参加

11月に福井県鯖江市で開催された第22回全国高等専門学校デザインコンペティション(高専デザコン)では、構造デザイン部門とプレデザコン部門に学生が参加しました。構造デザイン部門には角野先生指導のもと、昨年参加した4C学生を中心として建設コース希望の1年生3名が加わった「すだち橋」と「れんこん橋」の2チームが出場し、紙で製作した橋梁模型の強度や軽量性、デザイン性で他の高専のチームと競いました。残念ながら上位入賞とはなりませんが、学生は模型製作の段階から一生懸命考えながら取り組み、また来年も参加したいと意気込んでいました。プレデザコン部門では、参加した創造デザイン・フィールドの課題として、来年度の高専デザコンの開催地である函館をテーマとしたトートバッグのデザインを行いました。長田先生指導のもと、3C学生の作品が最優秀賞を受賞しました。この作品がデザインされたトートバッグを来年の高専デザコンの参加者が会場を持ち歩くこととなります。本校では、同部門において昨年も最優秀賞を受賞しているので、2年連続での受賞となりました。



高専デザコン
プレデザコン部門最優秀賞作品

他にも様々なイベント参加や学会での研究発表など、学生の学外での活動も積極的に行っています。最近、1年生や2年生の低学年の学生も積極的に参加している傾向が見られます。今後も建設コースにご支援のほど、よろしくお願いいたします。

化学コース便り

化学コース主任

大田直友

悠久校友会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本校ならびに化学コースの教育・研究活動に対し、多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

化学コースは2024年に10周年の節目を迎え、現在は次の10年に向けた新たな歩みを進めております。これまで1期生から7期生までの卒業生を輩出し、県内外に進学または就職し、各方面で活躍しております。お陰様で、企業ならびに中学校からの注目も年々高まっております。

化学コースでは、「自然を知る（物理化学・分析化学）」「環境を学ぶ（生物学・環境工学）」「物質を創る（有機化学・無機化学・化学工学）」の3つの学びを柱とし、化学薬品製造技術者、化学プラントエンジニア、品質管理技術者、化学研究者に必要とされる知識と技術の修得を目指しています。実践を重視した教育方針を特色としており、4年次までに上記関連分野にわたる実験科目を設置しています。4年前期には、全研究室のテーマを含む「物質化学実験」を開講し、より実践的な実験技術を修得します。4年後期からは各研究室に配属され、5年次の卒業研究に備えます。3年次の「創造化学セミナー」では、大学研究者や企業技術者等を招聘し、最先端の科学技術や工学的課題について学びます。また、多くの学生がeco検定、QC検定、危険物取扱者等の資格を取得しています。

2025年は、化学コースにおいて教職員構成に大きな変化があった年となりました。

長年にわたり本校の教育・研究活動を支えてこられた吉田岳人先生、中村厚信先生、江連涼友先生、ならびに東和之技術職員が3月に阿南高専を離れられました。これまでの多大なご尽力に、心より感謝申し上げます。



第7期生が2025年3月に卒業しました。

一方で、2025年4月より新たに山口堅三准教授（徳島大より着任）および本田晴香講師（秋田大より着任）が化学コースの教員として加わりました。山口准教授はナノマイクロシステムおよび光工学を専門とし、本田講師は生物工学および生物教育を専門としています。両名の着任により、大学との研究連携や地域に根ざした教育・研究活動のさらなる充実が期待され、化学コースの教育・研究体制は一層強化されました。

学年ごとの構成は、2年生28名（担任：藤原みずき先生）、3年生28名（担任：杉山雄樹先生）、4年生30名（担任：鄭 涛先生）、5年生26名（担任：上田康平先生）、専攻科1年生1名、専攻科2年生1名となっております。近年は留学生を3名受け入れており、女子学生は各クラスの約半数を占めています。どの学年も明るく、仲の良いクラスです。

2年生は化学コース11期生として、4月の白衣着用式にて化学コースの一員となりました。また、4年生主催の「ようこそ、化学コースへ！」の会で温かく迎えられ、フレッシュな雰囲気の中、実験系科目を大いに楽しんでいる様子が印象的です。

3年生は専門科目が増え、授業の難易度も上がりましたが、一生懸命に学業に励みました。研修旅行では、大阪・関西万博およびユニバーサル・スタジオ・ジャパンを訪問し、カーボンニュートラル、先端材料、エネルギー・資源循環など、未来社会を支える科学技術の実装例を体感するとともに、科学技術を社会へ実装する重要性について理解を深めました。

4年生は夏季にインターンシップを実施するとともに、12月に本校で開催された企業研究セミナーにも参加し、就職・進学に向けた準備を本格的に開始しました。また、蒼阿祭での専門展示や中学生一日体験入学にも積極的に参画しました。後期には「創造化学実験」において各研究室へ配属され、卒業研究に向けたゼミや予備実験も始まりました。

5年生は28名全員の進路が確定しました。就職者は24名で、日亜化学工業、第一三共バイオテック、大塚製薬、千代田化工建設、三菱ガス化学、太陽ファルマテック、ダイキン工業、日本触媒、旭化成、花王、UBE堺工場、森永乳業神戸工場、大鵬薬品工業、第一三共、大塚製薬工場、資生堂、日東電工などから内定をいただきました。進学者は4名（合格延べ7名）と例年より少なめではありますが、東京科学大学、大阪大学、奈良女子大学（初合格）などの難関校にも合格しています。このように例年同様、早期に進路が確保できたのは、これまでの化学コース卒業生、



左から、吉田岳人先生、東和之技術職員、江連涼友先生、中村厚信先生。2025年3月に阿南高専を離れられました。

ならびに悠久校友会会員の皆様の多大なご支援・ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。現在、5年生は卒業論文の完成に向け、日々研究に励んでいます。

今後は、数十年先にも活躍できる化学系技術者・研究者の育成を目指し、数理・AI・データサイエンスを取り入れた先進的な化学教育の導入も予定しています。化学コースは、教員・職員・学生が一丸となって日々発展に努めています。

引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、悠久校友会会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

専攻科便り

専攻科長

奥本良博

悠久校友会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。令和7年度から専攻科長を拝命しております奥本と申します（本科22期の卒業生です）。どうぞよろしくお願い申し上げます。専攻科・創造技術システム工学専攻は機械システムコース（AM）、電気電子情報コース（AE）、建設システムコース（AC）、応用化学コース（AZ）の4コースから構成されており、令和7年度は、1年生はAM6名、AE9名、AC1名、AZ1名の合計17名が在籍し、専攻科1年生の担任は岡本浩行先生が担当しております。また、2年生はAM3名、AE10名、AC2名、AZ1名の16名が在籍し、2AM・2AC・2AZの担任は山口堅三先生、2AEの担任は中村雄一先生が担当しております。また、今年度は専攻科長を含めてこの4名の教員で、創造工学演習、学修総まとめ科目および複合領域ゼミナールなど専攻科科目を担当しております。

専攻科の1年のスタートは始業式後の1年生と2年生の「対面式」から始まります。対面式というと先輩方の中には学寮の「恐怖の対面式」を思い出す方もおられると思うのですが、専攻科の対面式は15年ほど前に、当時の當宮辰美専攻科長の発案で温かい気持ちで2年生が1年生を迎え入れる趣旨ではじめられたものです。この式を通して専攻科2年生は最終学年としての自覚を持つようになるのか、

どうか2年生らしくなります。

専攻科は4つのコースの「コラボレーション」を推進する目的で、1年生の前期に創造設計工学演習（副専攻）という科目に取り組みます。午後いっぱいを使ってそれぞれのコースの教員が与えた課題について、問題解決する演習科目です。私はこの科目を初めて担当しましたが、学生が本科の時の出身コースで習った技を出し合い、協力して問題解決に取り組む様子は実際の仕事でも役立つことであると思いました。このように専攻科では他コースの学生との融合も盛り込まれ、2年生の「創造工学演習」でもチームを組んで特許申請に取り組んでいます（※今年度のパテントコンテストで本専攻科の「後付け水量固定器具」が優秀賞に選ばれました）。

専攻科1年生の一大行事としてはインターンシップがあります。以前のような長期就業をとまなうカリキュラムはなくなりましたが、夏休み等を利用しての就業体験や大学院の研究室での実習を経て進路選択の参考にする絶好の機会です。最近は企業のインターンシップも採用に結びつくようになりましたので、お互いシビアな情報戦を展開しているようです。このインターンシップの報告会を12月に開催し、お世話になった企業の担当者の皆様を交えての有益な体験の共有がなされました。

令和も8年目になり、コロナ禍で専攻科も一時はどうなることかと思われましたが、何とか落ち着きを取り戻しました。しかし、世の中の関心ごとが増え、学生の多様化が進み、特別研究に日々熱心に取り組むというスタイルも懐かしくなりつつあります。せめて学位申請書類に学位授与機構からのクレームがつかないためにも、「自分の研究のキーテクノロジーは何か」「自分以外の人に研究内容を文章で説明できるだろうか」といった課題に正面から向き合う場として、1年生の複合領域ゼミナールを活用してもらおうと活動しております。自分の研究課題のポイントをクラスみんなにわかるように説明を工夫することの大切さを知り、専門外の知識についても理解するための努力をする機会をお互いに上手に活用してほしいと思っています。

私自身の専攻科の担当は14年ぶりですが経験も浅く、専攻科長補佐の岡本先生（前専攻科長）と中村先生にいろいろ教えていただきながら、何とか1年間、専攻科長としてやってこられました。これからも「専攻科に進んでよかったなあ」と思ってもらえるように精進いたしますので、ご指導ご協力の程、よろしくお願いいたします。



1年生・創造設計工学演習（コラボレーション）の様子



1年生・インターンシップ報告会の様子



2年生・創造工学演習（特許出願演習）の様子